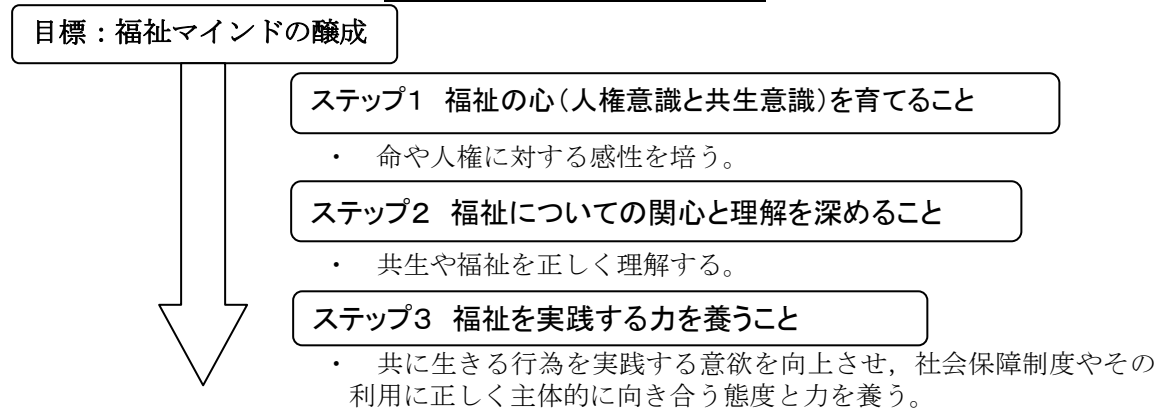


福祉教育

福祉教育とは、「人間尊重の精神を基盤に、一人一人が自分も他人も人間として共に生きる大切さを理解し、人間がより人間らしく生きる福祉社会を形成していく能力や態度を育てる」教育である。

【図】福祉教育の目標と展開



(参考：社会福祉法人 広島県社会福祉協議会 「福祉教育推進の手引」から)

1 福祉教育の指導のポイント

(1) 体験的な学習を重視する

「共生・共存」、「地域社会」、「直接体験」及び「感性」をキーワードとしながら、命や自然・文化との出会い、家族や仲間、地域の人々との交流、地域の高齢者や障害のある人たちとの交流と理解・支援など、身近にある様々な活動を入り口として取り組む。

(2) 実践的な態度や能力の育成を図る

児童・生徒の発達段階や学習レベルに応じたものとするとともに、特別活動やボランティア活動、地域活動等の体験的・実践的活動を通じて、自ら主体的に社会的な課題へ関わっていく意欲や実践力を養う。

2 指導上の留意点

(1) 福祉教育の位置付けの明確化と全校で取り組むための体制づくり

- 学校教育目標や各教科等との関連を図った全体計画を作成する。
- 福祉やボランティアについて正しく理解するために、校長を中心として、全教職員が指導内容や指導方法について研修の機会をもち、教職員間での共通理解を図る。

(2) 地域と協力・連携するための体制づくり

- 地域の実態や地域社会での取組を十分把握する。
- 学校が計画する活動は、地域で行われている福祉活動と連携することでより効果的なものとなる。計画段階から、社会教育関係者、福祉関係者、地域の関係者などと連携し、共に考えていくという姿勢を大切にするとともに、福祉教育について日常的に連携・協力していく体制づくりを行う。

参考：社会福祉法人 広島県社会福祉協議会 「福祉教育推進の手引」
社会福祉法人 全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター
「学校における福祉教育ハンドブック」